**第1回インフラメンテ国民会議に関する意見交換会（2015年12月16日）発言内容**

NPO法人シビルサポートネットワーク

代表理事　辻田　満

●課題・要望事項の説明

地方自治体（とくに市町村）における財政困難や技術者不足による長寿命化修繕計画に基づく修繕実施が出来ない状態が今後大きな社会的課題になると考えます。平成25年時点で市区町村の長寿命化修繕計画の実施状況は僅か5％に止まっています。この社会的課題を解決すべく地方自治体のインフラの維持管理を支援する革新的なビジネスモデルによる新しい仕組み作りが必要と考えます。

当NPOは土木学会の創立100周年記念事業として創設されたNPO法人シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP)の加盟団体として活動しております。現在、当NPOはCNCPをプラットフォームとした共創プラットフォーム事業化研究会を立ち上げてゼネコン4社とインフラメンテ市場への新しいビジネスモデルの研究に取り組んでいます。新しいビジネスモデルの構築には新しい視点の導入が不可欠であると考えます。その視点とはCSV(共有価値の創造）と米国において社会的課題解決に取り入れられているセオリーオブチェンジの両者の視点です。国土交通省としてもこのCSVとセオリーオブチェンジの両者の新しい視点を率先してインフラメンテに関わる社会的課題解決に取り入れることを是非ともご検討頂きたい。（この両者については補足説明の時間を与えられれば後程説明します。）

　また、国土交通省ではインフラメンテナンスに係るグッドプラクテス(実践事例)を募集してその普及の後押しをする試みをスタートさせました。要望としてはグッドアイデア（良い企画）を募集しこれを実現できるように支援する試みも是非とも行って欲しいと希望します。なぜならば、どんなに優れた企画でも特に地方自治体（市町村）では前例主義で実施事例が無ければまず取り上げてもれえないからです。これを国として支援して頂ければ革新的なビジネスモデルによる新しい試みの実現の可能性が広がります。

**第2回インフラメンテ国民会議に関する意見交換会（2016年4月27日）発言内容**

NPO法人シビルサポートネットワーク

代表理事　辻田　満

●国民会議に求めるもの、課題についての意見

　国民会議の構成メンバーにNPOが明記されておりますが、第1回の意見交換会に参加した出席者の内訳をみるとNPOは僅か4％でした。是非とも国民会議に参加させて頂きNPOとして産学官とは別なサードセクターとしての役割を果たして行きたいと願っております。

　国民会議創設の青写真に「幅広い業種からの新規参入を促進し、メンテナンス技術分野での生産性革命をおこす」が掲げられていますが、このミッションに対し賛同します。また、フォーラムをテーマ毎に整理して行うことは良いと思います。当NPOは整理されたテーマの中で「ビジネスモデル研究」の運営参加を希望します。

とくに、「ビジネスモデル研究」では視点としてCSV(共有価値の創造）と米国において社会的課題解決に取り入れられているセオリーオブチェンジの両者を取り上げる事を提案します。国土交通省としてもこのCSVとセオリーオブチェンジの両者の新しい視点を率先してインフラメンテに関わる社会的課題解決に取り入れることを是非ともご検討頂きたい。

　技術コンペの実施を検討しておりますが、技術コンペによって広く有効な技術を顕在化することが可能となると考えられます。コンペの対象として「技術」だけではなくインフラメンテナンスに関わる革新的な取り組みも取り上げられる分野もあると良いと考えます。また、表彰制度も実績評価に加えてまだ実績が無くても成果が期待できるアイデアも対象にして、そのアイデアを試行できる社会実験的な取り組みも欲しいと考えます。

　最後に、広く国民会議の活動内容を社会に周知する目的で季刊誌の発行も検討して欲しいと思います。

●追加・補足説明

　　　「共有価値の創造（CSV）」とは2011年にハバード大学のビジネススクールのマイケル・ポーター教授の論文がマッキンゼー賞を受賞され、これが世界的に注目されるようになりました。社会問題の解決と企業利益の創出の両立が企業の新たなビジネス機会をもたらすものとしてCSVが定義されています。従来のCSRとしての企業の社会貢献活動では限界があり、これからはCSRに変わる新しいCSVの取り組みが企業にとって不可欠となると考えます。

　　　　セオリーオブチェンジは2005年にアスペン研究所によって取りまとめられた「The Community Builder’s Approch to Theory of Change」によって体系化されました。日本に紹介されてまだ数年を経過するのみです。ただし、類似の理論であるロジックモデルについては平成15年に農林水産省がロジックモデル策定ガイドを作成しています。また総務省も平成21年度にセオリーオブチェンジに近い形でロジックモデルを使った政策評価を行っています。今後、セオリーオブチェンジは社会的な課題解決のツールとしては有効な手法として活用できると考えています。

注：CSV : Creating Shared Value (共有価値の創造)　　CSR : Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)